

会議派遣報告

第1回, 第2回次世代シンポレクチャーシップ賞 受賞講演旅行報告

三ツ沼治信

Harunobu MITSUNUMA 東京大学大学院薬学系研究科助教

笹野裕介

Yusuke SASANO 東北大学大学院薬学研究科講師





はじめに

JISEDAI Symposium Lectureship Award は,有機化学分野で独創的な研究業績をあげた36歳未満の若手研究者に受賞講演ツアーを通じてアピールする機会を提供する目的で2020年に新設された賞である.今回,三ツ沼(第1回受賞者)と笹野(第2回受賞者)が2023年8月21~27日の期間で香港の4大学にて講演ツアーの機会を頂いた.以下,詳細を報告する.

講演の詳細

1. 香港中文大学 (The Chinese University of Hong Kong: CUHK) (笹野)

本講演ツアーの初日には、CUHK を訪問した. ホストの Ying Yeung Yeung 先生と待ち合わせを した後、多環芳香族化合物をご専門とする Miao Qian 先生とディスカッションする機会を頂いた. 昼食後、Yeung 先生にはキャンパス内をご案内頂 きながら、CUHKの歴史についてご教示頂いた. CUHK は 1949 年創立の歴史ある大学で、英国のカ レッジ制度を採用している世界的にも珍しい大学と のことである. Yeung 先生との最近の有機触媒研 究に関するディスカッションの後、三ツ沼先生と笹 野の講演会が開催された. 香港は学期が始まる直前 の出張シーズンだったため、 有機合成化学をご専門 とする先生方がご不在で、 笹野の講演はお世辞にも 盛り上がったとは言い難かった。講演会の後、ちょ うど講義から戻られた Gavin Chit Tsui 先生とディ スカッションさせて頂いた. Tsui 先生は親日家で. 日本の有機金属化学分野の先生方の近況についても 情報交換した. 専門が近い Tsui 先生に筆者らの講 演会にご出席頂けなかったのが心残りであった.

2. 香港大学(Hong Kong University: HKU) (三ツ沼)

初日の講演ツアーを終え, ホッとしたのも束の 間,二日目の講演はHKUでおこなった。HKUは 世界大学ランキングで上位になるなど、アジアでも トップレベルの大学である. HKU では, 2019 年か ら研究室を主宰されている大黒耕先生にホストして 頂いた. 大黒先生は東京大学大学院工学系研究科・ 相田研究室出身で、分子糊の研究で素晴らしい業績 を上げられた後に香港で独立された新進気鋭の研究 者である. まず HKU に到着後は数人の若手 PI と ディスカッションする機会を頂いた. 失礼ながら分 野が少し異なっているためか認識不足だったが, 各々の分野で際立った成果を上げ高い競争を勝ち抜 いてポストを得た研究者ばかりで、改めてレベルの 高さを実感した. 講演は特に問題もなく. 多くの質 間が出て及第点と言えるだろう. その後, 大黒先生 のオフィスに移動し、香港でポストを得た経緯や香 港での教育・研究、その他紙面には書けないような 話まで盛り上がった. 今までも海外の若手研究者と 話す機会はあったものの、中々キャリアについて深 く語ることは無かった. 同じ日本でのバックグラウ ンドを持つ研究者に、母国語でキャリアの意思決定 について細かいニュアンスまで含めて話すことがで きたのは貴重な経験になった.

3. 香港城市大学(City University of Hong Kong: CityU)(三ツ沼)

ツアーも後半に差し掛かるところで、次は CityU での講演である. CityU では、2018 年から研究室を主宰されている松田侑大先生にホストして頂いた. 松田先生は学部生時代の同期であり、まさかこんなところで再会することになるとは思ってもみなかった. CityU は純粋な有機合成の研究室が少な

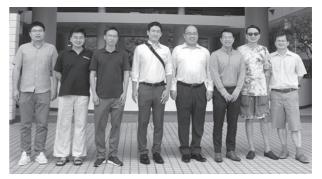


会議派遣報告

く、講演内容が理解されるか不安であったが質問もたくさん出て心配は杞憂に終わった. ここで一番刺激になったのは松田先生の苦労話である. 松田先生は香港に来られてから、デモやコロナに遭い、研究どころではない時期が続き、特にデモでは大学の破壊などもあったようで身の危険すら心配しなくてはいけない状況を過ごされた. 実験室も見せて頂いたが、どうやってこんなところでやっていくんだ…という狭いスペースで研究されていた. そういう状況でもしっかり一流ジャーナルに成果を出しておられるのは尊敬の念しかない. 大黒先生もそうだったが、異国の地で若くして独立されている研究者は精神的にも肉体的にも相当タフである. 自分ももっと努力しなければ、と再認識させられた.

4. 香港科技大学 (The Hong Kong University of Science and Technology: HKUST) (笹野)

ツアー最終日は、HKUST にて講演を行った。ホ ストの中村斐有先生は京都大学大学院薬学研究科の 竹本研究室で学位を取得後, 米国スクリプス研究所 の Baran 研究室で博士研究員として研鑽を積まれ た後、日本での教員経験を経ずに最近独立した気鋭 の研究者である. 中村先生はスクリプス研究所にお いて笹野の後輩(笹野は元 Shenvi 研究室博士研究 員)にあたり、個人的に注目していた。Baran 研究 室というビッグラボを出て自分の小さいグループを 立ち上げ、その環境の変化に適応しながら成果を出 せるように頑張っていると話していた. さて, HKUST では朝一番の講演会だったため人が集まる か不安があったが、中村先生を含め総勢6名(写真 参照)の先生方にお集まり頂いた。最終日にして講 演後の討論は最も盛り上がり、先生方の暖かさに熱い 気持ちになった. 上記6名の先生方との昼食の後. Quan 先生, Huang 先生, Tong 先生, Sun 先生との ディスカッションをさせて頂いた. いずれの先生方も 小さいグループながら高いレベルの研究を展開して おり、大変刺激を受けた、懇親会は中村先生、Quan 先生、Sun 先生、Tong 先生と地元の海鮮レストラ ンで行われ、お酒も入りつつ香港の国際性豊かな研 究教育について活発なディスカッションを行った.



HKUST での集合写真(左から Yangjian Quan 先生, Haibin Su 先生, Jianwei Sun 先生, 三ツ沼, 笹野, 中村先生, Yong Huang 先生, Rongbiao Tong 先生)

おわりに

コロナで数年越しにはなったが、このような講演 ツアーに行けたことを心から嬉しく思う. 同行した 笹野先生からも大いに刺激を受ける毎日で、終始楽しく過ごすことができた. 今回のツアーの一番の目 的であった海外の日本人 PI から自分に足りないものを学ぶ、という目的は十分達成されたと言ってよい. 香港と日本の研究の違いから、講座制の是非まで色々考えさせられる数日間であった. ここで得た 経験を今後の研究人生に活かしていきたい(三ツ沼).

コロナ禍の影響を受けて、イレギュラーな2人での講演ツアーとなったが、三ツ沼先生と笹野は初対面であり、異国の地で2人で奮闘(?)したことで親睦が深まった。また、いつもキレの良い三ツ沼先生の講演を聴いて惨めな気持ちにもなったが、自身の発表スキルを見つめ直す良い機会となった。4日間の講演の中で少しずつ筆者の発表スキルが磨かれ、かなり上達したと信じている。今回のツアーを介してたくさんの新しい出会いがあっただけでなく、若手日本人PIの先生方の活躍を目の当たりにし、大いに刺激を受けた(笹野)。

キーワード

次世代シンポレクチャーシップアワード、受賞講演旅行、香港

Copyright © 2024 The Pharmaceutical Society of Japan